

P D C A チェックシート (平成 26 年度実績評価)

事業概要							担当局	建設局
							担当課	公園建設課
事業名 地域に役立つ公園づくり事業							課長名	藤井
							施策番号	
事業概要	計画段階から地域住民の意見を聞き、地域ニーズを反映した公園整備を行うことで、これまで以上に利用される公園を目指すものです。 具体的には、小学校区を1つの単位として、まちづくり協議会を中心とする地域住民と協働で校区内にある街区公園の再整備計画を策定し、整備を行います。						事業手法	<input type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他 ()
	コスト		26年度当初予算額	26年度執行額	(事業費備考)	人件費		目安の金額
事業費	175,000 千円					3,825 千円		

【Action】改善			
課題	H24年度の評価結果を受けての課題	地域住民とのワークショップについて参加者が少ない場合の募集のかけ方、参加者の年齢層の偏り、意見の集約の仕方等の課題があります。	見直し内容 市民センターで行われているサークル活動や自治会等様々な団体への積極的な呼びかけや小学校の児童へのアンケートを行い、公園整備の要望を伺います。

【Plan】計画				【Do】実施 → 【Check】評価		
目的	対象(誰を、何を)	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか)		成果の状況	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック	
	市民	公園を身近に感じられ、積極的に活用してもらおう状態にすることを目指します。				
代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方)		25年度実績	26年度目標	26年度実績 (達成率)	成果の状況評価理由
	市民が身近に公園を感じられる状態			25 公園		
	当事業は地域住民とのワークショップを重ね、地域のニーズを反映させた公園を整備するため「当事業の整備公園数」を指標とします。 (最終目標と目標年度)				%	
	(最終目標と目標年度)				%	

活動計画	どうやって目的を達成するか	H26年度については4校区のワークショップを開催し、計画策定を行います。			活動の状況	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック
活動指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明)		25年度実績	26年度目標	26年度実績 (達成率)	活動の状況評価理由
	計画策定校区数			4 校区		
	毎年、各区の事業実施進捗率や公園の老朽化度、まちづくり活動への積極性等をもとに複数校区選定し、計画策定を行っていきます。				%	
					%	

【Check】評価(分析)	
分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点 「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を)の分析 ※民間活力導入の視点

P D C A チェックシート (平成 26 年度実績評価)

事業概要							担当局	建設局
							担当課	緑政課
事業名 子どもの安全・成長に配慮した公園整備事業							課長名	千々和
							施策番号	
事業概要 遊具や園路などの公園施設を活用して、子どもが健やかに成長し、また、犯罪等の被害にあわないよう配慮することが今後の公園整備に必要と考えています。専門家を交えて、こうした公園整備のあり方を検討し、実際に公園整備を進めていきます。							事業手法 <input type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input checked="" type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他 ()	
コスト	事業費	26年度当初予算額	26年度執行額	(事業費備考)	人件費	目安の金額	課長 0.05 人	
		16,000 千円	千円			3,075 千円	係長 0.10 人 職員 0.20 人	

課題	H24年度の評価結果を受けての課題	児童が犯罪に巻き込まれる事件が報告され、専門家からは犯罪の温床となる場所として、見通しの悪い公園などが指摘されています。また、こうしたことから、外で遊ぶ児童が減少し、基礎体力の低下が起こっているともいわれています。そこで、児童が安全かつ元気に遊びながら、成長していける公園空間を設計していきたいと考えています。	見直し内容
-----------	-------------------	---	--------------

【Plan】計画				【Do】実施 → 【Check】評価	
目的	対象(誰を、何を)	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか)		成果の状況	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック
	公園利用者、市民	児童の体力が増進され、犯罪がなくなる状態			
代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方)	25年度実績	26年度目標	26年度実績 (達成率)	成果の状況 評価理由
	犯罪の抑制		0 件		
	専門家からは公園で児童が巻き込まれる被害として、性犯罪が拳がっており、この事業の対象公園で、犯罪の発生件数を調査し、ゼロとなることが目標です。 (最終目標と目標年度) 対象公園での性犯罪事件発生件数をゼロとする H35年度			%	
	公園で活動する児童の割合		50 %		
市内でモデル公園を整備し、対象公園の活動者の割合が子ども中心となることが目標です。 (最終目標と目標年度) 対象公園での活動児童の割合を50%に上昇する H35年度			%		

活動計画	どうやって目的を達成するか	平成26年度に策定される安全・安心条例の思想に基づいて、公園整備を行っていきます。子ども家庭局、市民文化スポーツ局と共同で、公園の整備計画に専門家の意見を盛り込んでいきます。	活動の状況	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック	
活動指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明)	25年度実績	26年度目標	26年度実績 (達成率)	活動の状況 評価理由
	子どもの体力増進に繋がり、犯罪が抑制される公園数の増加		4 公園		
	局横断的に連携し、事業を進めていきます。また、公園の利用状況を調査し、評価します。			%	
			%		

【Check】評価(分析)	
分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点 「経済性」 (同成果を低コストで) 「効率性」 (同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点

PDCAチェックシート (平成 26 年度実績評価)

事業概要						担当局	建設局
						担当課	水環境課
事業名 河川改修事業の推進						課長名	田口
						施策番号	
事業概要 近年、ゲリラ豪雨や都市化の進展に起因する浸水被害が増加しています。浸水被害を抑制するため、治水事業の根幹となる河川改修を推進します。						事業手法 <input checked="" type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input checked="" type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他 ()	
コスト	事業費	26年度当初予算額	26年度執行額	(事業費備考)	人件費	目安の金額	課長 1.00 人
		1,713,000 千円	千円			86,500 千円	係長 1.50 人 職員 8.00 人 (人件費備考)

【Action】改善			
課題	H24年度の評価結果を受けての課題 今後も引き続き、用地の確保や関係機関との調整に努め、浸水対策に効果的な整備を行います。	見直し内容	整備箇所毎に最も経済的な方法を検討し、効果的に治水対策を進めます。(現状維持)

【Plan】計画				【Do】実施 → 【Check】評価	
目的	対象(誰を、何を) 市内全域	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか) 浸水被害を抑制するため、治水事業の根幹となる河川改修を推進します。		成果の状況	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック
代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	25年度実績	26年度目標	26年度実績(達成率)	成果の状況評価理由
	浸水被害の低減				
	河川毎に計画している降雨(1時間で50~70mm程度)に対応できる状態を目指します (最終目標と目標年度) H40年度			-	%
	(最終目標と目標年度)			%	

活動計画	どうやって目的を達成するか H21、22の豪雨により浸水被害が発生した河川の重点的な整備をはじめ、優先度の高い河川について護岸工事等を行い、河川整備の進捗を図ります。	活動の状況	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック		
活動指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	25年度実績	26年度目標	26年度実績(達成率)	活動の状況評価理由
	河川整備率				
	河川の拡幅や河床の掘削等を行い、河川整備率を上げることにより、治水対策を進めます。(平成40年度までに河川整備率100%を目指します。)			82 %	%
				%	

【Check】評価(分析)	
分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点 「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点

P D C A チェックシート (平成 26 年度実績評価)

事業概要							担当局	建設局
							担当課	緑政課
事業名 健康づくりを支援する公園等整備事業							課長名	千々和
							施策番号	
事業概要 公園に高齢者の健康増進に配慮した健康遊具を設置し、健康教室を開催して、利用者に使い方を説明します。継続的にこの健康遊具を利用することにより、高齢者の体力増進効果が得られるとともに公園利用者の増加に繋がります。							<input type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他 ()	
							(人件費備考)	
コスト	事業費	26年度当初予算額	26年度執行額	(事業費備考)	人件費	目安の金額	課長 0.05 人	
		48,000 千円	千円			3,075 千円	係長 0.10 人 職員 0.20 人	

【Action】改善			
課題	H24年度の評価結果を受けての課題	平成24年度までに各区に1~2箇所の健康づくりに配慮した拠点公園が整備されています。今後、周辺自治会に呼びかけて、健康遊具のさらなる活用を促していきます。	見直し内容 健康遊具が設置されている公園を知らない人が存在しているため、保健福祉局と共同で、周知活動を行っていきます。

【Plan】計画			【Do】実施 → 【Check】評価			
目的	対象(誰を、何を)	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか)	成果の状況	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック		
	主として高齢者を対象とした市民	健康的な高齢者が住まう社会				
代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方)	25年度実績	26年度目標	26年度実績 (達成率)	成果の状況 評価理由	
	健康づくり教室が行われる公園数		2 公園			
	各区に拠点となるモデル公園を整備し、高齢者の健康増進に繋げていくことを目標とします。また、健康遊具の使い方を知る市民を増やし、街区公園など身近な公園で、自発的な健康増進活動が行われていく社会を目指します。 (最終目標と目標年度) 30公園 H35年度				%	
	(最終目標と目標年度)				%	

活動計画	どうやって目的を達成するか 保健福祉局と連携し、公園に配置した健康遊具を利用して、高齢者向けの健康教室を開催します。各区の拠点公園で、この共同事業を進めることにより、健康遊具の利用者を増やし、遊具の使い方を伝播し、市内全域で、健康増進活動が行われていく社会を創造していきます。	活動の状況	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック			
活動指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明)	25年度実績	26年度目標	26年度実績 (達成率)	活動の状況 評価理由	
	高齢者に配慮した健康遊具の設置公園数		2 公園			
	局横断的に連携し、事業を進めていきます。また、健康増進効果を測定していきます。				%	
					%	

【Check】評価(分析)	
分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点 「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を)の分析 ※民間活力導入の視点

P D C A チェックシート (平成 26 年度実績評価)

事業概要							担当局	建設局
							担当課	道路計画課
							課長名	橋口
							施策番号	
事業名	ボランティアネットワークの推進(道路サポーター)						事業手法	<input type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他 ()
事業概要	市が維持及び管理する道路において、道路清掃・美化などのボランティア活動を行う地域の団体を対象に、清掃用具や花苗の支給などにより支援します。							(人件費備考)
コスト	事業費	26年度当初予算額	26年度執行額	(事業費備考)	人件費	目安の金額	課長 0.05 人 係長 0.17 人 職員 0.95 人	
		18,262 千円	千円			9,400 千円		

【Action】改善			
課題	H24年度の評価結果を受けての課題	代表的な成果指標は、ほぼ目標どおりの成果を得ることができましたが、成果が伸び悩んでいます。今後は、市が主体となって結成促進のためのPRを行うだけでは、目標を下回ることが予想されるため、より効果的な方法を検討していく必要があります。	見直し内容 道路サポーター制度の運営に関する新たな仕組みにより、道路サポーター活動団体の身近なところでの結成促進を図ります。

【Plan】計画			【Do】実施 → 【Check】評価			
目的	対象(誰を、何を)	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか)	成果の状況	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック		
	環境美化ボランティア活動	道路、公園、河川のボランティア活動を行うこと、団体相互の情報交換や活動の共有化(ネットワーク)を行うことで、事業のさらなる発展と本市の美しいまちづくり、安全安心なまちづくり等の推進を図ります。				
代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方)	25年度実績	26年度目標	26年度実績 (達成率)	成果の状況 評価理由	
	道路サポーター加入団体数		225 団体			
	美しいまちづくり、安全安心なまちづくり等の推進を図るためには、道路サポーターの加入団体数が増加することが望ましいため、加入団体数としました。 (最終目標と目標年度)				%	
	(最終目標と目標年度)				%	

活動計画	今年度は、昨年度に引き続き、清掃活動等の支援(清掃用具や花苗の支給など)をNPO法人に委託します。また、活動団体の交流・連携を図る目的で総会を開催します。道路サポーター活動団体が構成される「北九州市道路サポーターの会」のなかで、区会を設けて、身近なところで活動団体同士で話し合い、活動団体自らが課題解決を図ります。また、区会で培われる横の連携により脱退抑制と新規加入団体を掘り起こします。	活動の状況	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック			
活動指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明)	25年度実績	26年度目標	26年度実績 (達成率)	活動の状況 評価理由	
	道路サポーター活動団体結成促進のためのPR活動等		—			
	エコライフステージへの出展や、国土交通大臣表彰への積極的な推薦により、道路サポーター活動について市民の方に関心を持っていただき、道路サポーター活動団体の結成促進につながるよう努めます。				%	
	(最終目標と目標年度)				%	

【Check】評価(分析)	
分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点 「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点

P D C A チェックシート (平成 26 年度実績評価)

事業概要					担当局	建設局
					担当課	公園管理課
事業名 ボランティアネットワークの推進(公園愛護会)					課長名	菊山
					施策番号 Ⅲ - 1 - (1) - ③	
事業概要 10名以上の地域住民で組織されるボランティア団体で、公園の美化活動・公園施設の点検や禁止行為の連絡・公園利用者のマナーづくり・市民花壇づくりなどを行い、活動面積に応じて活動費を助成しています。					事業手法 <input type="checkbox"/> 直営 <input checked="" type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他 ()	
					コスト	事業費

(人件費備考)当該事務事業については各区まちづくり整備課が補助金交付事務や愛護会の相談事務を行っています。

【Action】改善			
課題	H24年度の評価結果を受けての課題 高齢化により解散する団体も多く、H25.10月時点では1,151団体ですが、今後も公園愛護会の活動について市民の方に関心を持っていただき、公園愛護会の結成促進につながるよう努めます。	見直し内容	公園愛護会活動についてのPRや積極的な表彰、表彰の推薦を行い、結成促進に努めます。

【Plan】計画			【Do】実施 → 【Check】評価		
目的	対象(誰を、何を) 街区公園の維持管理	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか) 公園の清掃や除草などの維持管理について、地元等で結成されている公園愛護会と協働による事業の実施を図るため、公園愛護会の結成促進を目指します。	成果の状況	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック	
代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方)	25年度実績	26年度目標	26年度実績 (達成率)	成果の状況 評価理由
	公園愛護会結成状況		1,160 団体		
	高齢化、少子化、さらには経済不況などの影響に伴い、ボランティア活動を行う団体の解散もあることから、全体の結成数を現状維持とし、H26年度時点で1,160団体を目指します。 (最終目標と目標年度)			%	
				%	
(最終目標と目標年度)			%		

活動計画	どうやって目的を達成するか 公園愛護会へ助成金の交付を行い清掃や除草等の活動を支援します。エコライフステージに出展し、道路サポーターや河川愛護団体とともに公園愛護会の活動を紹介し、熱心な活動団体の各種表彰への推薦を積極的に行います。	活動の状況	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック		
活動指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明)	25年度実績	26年度目標	26年度実績 (達成率)	活動の状況 評価理由
	公園愛護会結成のためのPR活動等		—		
	エコライフステージへの出展や、都市緑化祭での市長表彰の実施、国土交通大臣表彰への積極的な推薦により、公園愛護会活動について市民の方に関心を持っていただき、公園愛護会の結成促進につながるよう努めます。			%	
				%	
			%		

【Check】評価(分析)	
分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点 「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点

P D C A チェックシート (平成 26 年度実績評価)

担当局	建設局
担当課	水環境課
課長名	田口
施策番号	
Ⅲ - 1 - (1) - ③	
事業手法	<input type="checkbox"/> 直営 <input checked="" type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他 ()
(人件費備考)	

事業概要						
事業名	ボランティアネットワークの推進(河川愛護団体)					
	地域の住民で構成する河川愛護団体に清掃道具購入の費用等となる補助金を交付することにより、美化活動を広げます。また、美化活動に参加することにより、地域の河川を身近に感じ、自分たちの川として愛着を持つような啓発活動へとつなげていきます。					
コスト	26年度当初予算額	26年度執行額	(事業費備考)	人件費	目安の金額	課長 0.40 人
	490 千円	千円			14,600 千円	係長 0.40 人 職員 0.80 人

【Action】改善			
課題	H24年度の評価結果を受けての課題	後継者不足から活動を断念する団体もあり、これを引き留めるのは難しく、団体数の単純増加を期待することは困難です。しかしながら今後も、河川愛護団体の活動について市民の方に関心を持っていただき、河川愛護団体の結成促進につながるよう努めます。	見直し内容 河川愛護団体の活動について市民の方に関心を持っていただけるよう周知(市ホームページの充実など)を図ります。また活動を断念した団体があれば、その地域を重点的に、結成の促進活動を行います。(現状維持)

【Plan】計画			【Do】実施 → 【Check】評価			
目的	対象(誰を、何を)	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか)	成果の状況	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック		
	市民	地域の河川を身近に感じてもらい、美化活動を広げていきます。				
代表的な成果指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	25年度実績	26年度目標	26年度実績(達成率)	成果の状況評価理由	
	河川愛護団体数		68 団体			
	河川における美化活動を広げるためには、情報発信を通して地域での意識を高め、身近な団体を増やす必要があります。 (最終目標と目標年度)72団体 H30年度末				%	
	(最終目標と目標年度)				%	

活動計画	どうやって目的を達成するか	<ul style="list-style-type: none"> 河川愛護団体へ補助金の交付を行い清掃や除草等の活動を支援します。 エコライフステージに出展し、道路サポーターや公園愛護会とともに河川愛護団体の活動を紹介します。 永年に渡って熱心に活動に取り組まれている愛護団体や会員の方を、福岡県の河川功労者表彰などへ積極的に推薦しています。 	活動の状況	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック		
活動指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	25年度実績	26年度目標	26年度実績(達成率)	活動の状況評価理由	
	河川愛護団体結成促進のためのPR活動等		-			
	エコライフステージへの出展や、福岡県河川功労者表彰への積極的な推薦により、河川愛護団体の活動について市民の方に関心を持っていただき、河川愛護団体の結成促進につながるよう努めます。				%	
					%	

【Check】評価(分析)	
分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点 「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点

P D C A チェックシート (平成 26 年度実績評価)

担当局	建設局
担当課	緑政課
課長名	千々和
施策番号	
Ⅲ - 1 - (2) - ①	
事業手法	<input type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他 ()
(人件費備考)	

事業概要					
事業名	「花やみどり」による彩りと潤いのあるまちづくり				
	都市景観の向上と潤いのある街づくりを目指し、花や緑を活用する事業です。花壇(公共花壇)の整備を行うと共に、市民花壇やスポンサー花壇、うるっちゃ!花壇といった、市民ボランティアや企業・団体と一体となって美しく快適なまちづくりを推進します。道路や公園などの緑は、都市景観を印象付けるとともに、快適な生活環境をつくります。また都市景観を印象付け、快適な生活環境をつくる道路などの緑の整備については、植栽場所の生育空間などを考慮した、ゆとりある植栽を行うとともに、適正な維持管理を行うことで健全な緑の育成に努めています。さらに特別緑地保全地区制度や保存樹制度を活用し、都市に残された貴重な緑の保全に努めています。				
コスト	26年度当初予算額	26年度執行額	(事業費備考)	人件費	目安の金額
	162,043 千円	千円			課長 0.10 人 係長 0.70 人 職員 2.00 人

【Action】改善			
課題	H24年度の評価結果を受けての課題	見直し内容	①公共花壇の配置及びデザインの見直し ②土地取得の強化
	①効果的な場所への公共花壇の設置 ②特別緑地保全地区における土地取得の遅れ		

【Plan】計画			【Do】実施 → 【Check】評価		
目的	対象(誰を、何を) ①市内各所 ②市内の緑	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか) ①花で彩られ、四季折々に花を楽しむことが出来る「花のまち北九州市」をさらに育てていき、市民はもちろん、ここを訪れた人にも「住んでみたい、住み続けたい」と思える「花とみどり潤いのまちづくり」を目指します。 ②特別緑地保全地区において、土地取得を行います。	成果の状況	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック	
代表的な成果指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方) 公共花壇及び市民花壇の面積 公共花壇及び市民花壇は市民に一番身近にある花壇であり、市と市民の花づくりの実績に直ちに反映されるものです。今後も市民との協働で「花とみどりの潤いのまちづくり」の推進に努めていきます。 (最終目標と目標年度) 46,587m2 H27年度	25年度実績	26年度目標	26年度実績(達成率)	成果の状況評価理由
	特別緑地保全地区の買収面積 特別緑地保全地区の買収を行い、都市の中の緑の保全を行っています。 (最終目標と目標年度)		46,287 m2	5,000 m2	%

活動計画	市民花壇においては市民との協働を推進していき、種からの花づくり推進やフラワーコーディネーターの主催する講座の開催などを推進していきます。 公共花壇においては、市民ボランティアとの協働や企業・団体の協力を得ながら効率的な維持管理に努め、より効果的な場所に設置し事業効果を維持していきます。 緑地保全地区においては、買入れ申し出のある土地について取得を行います。	活動の状況	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック		
活動指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明) 花づくりに関する講座の開催 フラワーコーディネーター主催で花づくり講習会を市民向けに開催します。また、市民花壇ボランティアを対象に講習会の開催を行い、花づくりの推進とボランティア間の交流の推進を行います。	25年度実績	26年度目標	26年度実績(達成率)	活動の状況評価理由
			10 回	%	

【Check】評価(分析)	
分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点 「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点

P D C A チェックシート (平成 26 年度実績評価)

事業概要							担当局	建設局
							担当課	公園建設課
事業名 地域に役立つ公園づくり事業							課長名	藤井
							施策番号	
事業概要	計画段階から地域住民の意見を聞き、地域ニーズを反映した公園整備を行うことで、これまで以上に利用される公園を目指すものです。 具体的には、小学校区を1つの単位として、まちづくり協議会を中心とする地域住民と協働で校区内にある街区公園の再整備計画を策定し、整備を行います。						事業手法	<input checked="" type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input checked="" type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他 ()
	コスト		26年度当初予算額	26年度執行額	(事業費備考)	人件費		目安の金額
事業費	175,000 千円					3,825 千円		

【Action】改善			
課題	H24年度の評価結果を受けての課題	地域住民とのワークショップについて参加者が少ない場合の募集のかけ方、参加者の年齢層の偏り、意見の集約の仕方等の課題があります。	見直し内容 市民センターで行われているサークル活動や自治会等様々な団体への積極的な呼びかけや小学校の児童へのアンケートを行い、公園整備の要望を伺います。

【Plan】計画				【Do】実施 → 【Check】評価		
目的	対象(誰を、何を)	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか)		成果の状況	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック	
	市民	公園を身近に感じられ、積極的に活用してもらう状態にすることを目指します。				
代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方)		25年度実績	26年度目標	26年度実績 (達成率)	成果の状況 評価理由
	市民が身近に公園を感じられる状態			25 公園		
	当事業は地域住民とのワークショップを重ね、地域のニーズを反映させた公園を整備するため「当事業の整備公園数」を指標とします。 (最終目標と目標年度)				%	
	(最終目標と目標年度)				%	

活動計画	どうやって目的を達成するか	H26年度については4校区のワークショップを開催し、計画策定を行います。			活動の状況	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック
活動指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明)		25年度実績	26年度目標	26年度実績 (達成率)	活動の状況 評価理由
	計画策定校区数			4 校区		
	毎年、各区の事業実施進捗率や公園の老朽化度、まちづくり活動への積極性等をもとに複数校区選定し、計画策定を行っていきます。				%	
					%	

【Check】評価(分析)	
分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点 「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点

P D C A チェックシート (平成 26 年度実績評価)

事業概要						担当局	建設局
						担当課	水環境課
事業概要						課長名	田口
						施策番号	
事業名	身近に自然を感じる河川整備事業					事業手法 <input type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他 ()	
事業概要	これまでの河川事業は治水整備を中心に行われてきました。このため、生物の生息・生育環境などへの配慮が不足し、河川は人工的な水路ようになってしまいました。そこで、都市内に唯一残された貴重な自然空間である河川を、水際の植生や自然な流れの復元などにより、生物の生息・生育環境に配慮した整備を行うことによって、ホタルの飛翔や緑の増加など、身近に自然を感じる水辺環境整備事業を行っています。						
コスト	26年度当初予算額	26年度執行額	(事業費備考)	人件費	目安の金額		課長 0.50 人 係長 0.50 人 職員 5.00 人 (人件費備考)
	381,000 千円	千円			48,250 千円		

【Action】改善			
課題	H24年度の評価結果を受けての課題	護岸工事を行う際には、積極的に環境に配慮した整備を行っており、H24年度も目標を達成しました。今後も、より一層、環境に配慮した護岸の整備の進捗を図ります。	見直し内容 今後もより一層、環境に配慮した護岸の整備を行い、市民が河川に親しみを感じる状態を目指します。(現状維持)

【Plan】計画				【Do】実施 → 【Check】評価		
目的	対象(誰を、何を)	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか)		成果の状況	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック	
	河川	ホタル等の生物の生息・生育環境に配慮した整備を行うことによって、自然を身近に感じる河川を取り戻します。				
代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方)	25年度実績	26年度目標	26年度実績 (達成率)	成果の状況 評価理由	
	環境に配慮した護岸整備					
	護岸工事を行う際には、生態系に配慮した整備を行うことで、自然を身近に感じる状態を目指します。 (最終目標と目標年度)				%	
	(最終目標と目標年度)				%	

活動計画	どうやって目的を達成するか	河川整備を行う際に、限られた敷地の中で、最大限生態系に配慮した整備を進めていきます。		活動の状況	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック	
活動指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明)	25年度実績	26年度目標	26年度実績 (達成率)	活動の状況 評価理由	
	環境に配慮した護岸整備延長					
	護岸整備を行う際に、生物の生息・生育環境となっている水際部を保全・復元するなど、生物に配慮した護岸の整備を進めます。		33,000 m		%	
					%	

【Check】評価(分析)	
分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点 「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点

P D C Aチェックシート (平成 26 年度実績評価)

事業概要						担当局	建設局
						担当課	道路計画課
事業名	バリアフリーのまちづくり					課長名	橋口
						施策番号	
事業概要	高齢者や障害者など、誰もが安全で快適に通行できるよう、道路・公園のバリアフリー化を行い、バリアフリーのまちづくりを進めます。具体的には、歩道の新設や拡幅、段差解消、視覚障害者誘導用ブロックの連続誘導などのバリアフリー化を行います。					事業手法	<input checked="" type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他
							コスト
		1,193.630 千円	千円			26,150 千円	(人件費備考)

【Action】改善			
課題	H24年度の評価結果を受けての課題	本市の高齢化率は政令市の中で最も高い状況となっており、急速な少子高齢化の進展に対応するため、バリアフリー化の推進は、今後も重要な取組となってくることから、着実な取組を継続することが必要であると考えます。	見直し内容 着実な取組ができるよう、北九州市福祉のまちづくりネットワーク(障害者団体)との連携を今以上に強化し、効率的な事業進捗が図れるに事業に取り組みます。

【Plan】計画				【Do】実施 → 【Check】評価		
目的	対象(誰を、何を)	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか)		成果の状況	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック	
	高齢者や障害者などを含めた全ての人	バリアフリー新法にも対応したよりきめ細かな歩道のバリアフリー化に取り組み、歩いて暮らせるまちづくりを推進します。				
代表的な成果指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)		25年度実績	26年度目標	26年度実績(達成率)	成果の状況評価理由
	主要駅周辺地区の主要経路の整備率					
	主要駅周辺の主要経路についても、北九州市福祉のまちづくりネットワーク(障害者団体)等との意見交換を踏まえ、整備を行っていることから、整備率を指標とします。 (最終目標と目標年度) 100% H32年度			89 %	%	
	(最終目標と目標年度)				%	

活動計画	どうやって目的を達成するか	「北九州市福祉のまちづくりネットワーク(障害者団体)」等と協議や現地点検を重ねながら、歩道のバリアフリー化の整備向上を図ります。			活動の状況	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック
活動指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)		25年度実績	26年度目標	26年度実績(達成率)	活動の状況評価理由
	歩道整備延長					
	歩道設置や歩道のバリアフリー化を行った整備延長			1.7 km	%	
	主要駅周辺のバリアフリー特定経路の整備延長					
主要な駅の周辺において、公共施設や病院などを結ぶ主要な道路を主要経路と定めて、歩道の新設や拡幅、段差解消、視覚障害者誘導用ブロックの連続誘導などのバリアフリー化を進めます。			0.5 km	%		

【Check】評価(分析)	
分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点
	「経済性」 (同成果を低コストで) 「効率性」 (同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点

P D C A チェックシート (平成 26 年度実績評価)

事業概要							担当局	建設局
							担当課	道路計画課
事業概要							課長名	橋口
							施策番号	
事業名	通学路の安全対策						事業手法 <input type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他 ()	
事業概要	登下校中の児童が交通事故に巻き込まれず、安全に安心して通学できる環境を整えるため、教育委員会や学校関係者、警察と一体となって、さらなる通学路の安全対策を推進します。							
コスト	26年度当初予算額	26年度執行額	(事業費備考)	人件費	目安の金額	課長 0.10 人		
	805,000 千円	千円			26,150 千円	係長 1.00 人 職員 2.00 人 (人件費備考)		

【Action】改善

課題	H24年度の評価結果を受けての課題	平成24年4月以降、全国各地で登下校中の児童等が死傷する交通事故が連続して発生したことを受け、緊急合同点検を実施するなど通学路における交通安全の確保に取り組んでいます。今後も、さらなる対策の改善・充実等の取組を継続して推進する必要があります。	見直し内容	取組が着実かつ効果的に実施できるよう、教育委員会や警察などの関係機関と連携して引き続き積極的に取組みます。
----	-------------------	---	-------	---

【Plan】計画

【Do】実施 → 【Check】評価

目的	対象(誰を、何を)	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか)		成果の状況	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック
	登下校中の児童等	通学路において児童等が安心して安全に登下校できる状態			
代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方)	25年度実績	26年度目標	26年度実績 (達成率)	成果の状況 評価理由
	通学路の危険箇所における対策完了箇所数				
	平成24年度に実施した通学路の緊急合同点検以降、学校から改善の要望があった危険箇所に対して、効果的な対策を検討し、実施していきます。 (最終目標と目標年度)		-	%	
	(最終目標と目標年度)			%	

活動計画	どうやって目的を達成するか	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか)		活動の状況	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック
	教育委員会、学校、PTA、警察などの関係者とこれまで以上に連携を図りながら、効率的・効果的な対策を推進します。	25年度実績	26年度目標		
活動指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明)	25年度実績	26年度目標	26年度実績 (達成率)	活動の状況 評価理由
	歩道整備延長				
	歩道の新設や拡幅整備を行った延長		2.7 km	%	
	防護柵設置延長				
	歩車道の境界部などに設置した防護柵の延長		2.2 km	%	

【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点
	「経済性」 (同成果を低コストで) 「効率性」 (同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点

P D C A チェックシート (平成 26 年度実績評価)

事業概要							担当局	建設局
							担当課	道路計画課
事業概要							課長名	橋口
							施策番号	
事業名	小倉駅・黒崎駅前の賑わいづくりの推進						事業手法 <input type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他 ()	
事業概要	北九州市の玄関口となる小倉都心部と黒崎副都心部の駅前において、魅力的な都市環境の創造につながる道路環境整備を行い、まちの賑わいを推進します。							
コスト	事業費	26年度当初予算額	26年度執行額	(事業費備考)	人件費	目安の金額	課長 1.00 人	
		819,000 千円				61,500 千円	係長 2.00 人 職員 4.00 人	

【Action】改善			
課題	H24年度の評価結果を受けての課題	小倉都心部及び黒崎副都心部の駅前整備は、まちの賑わいづくりを進めるうえで重要な取組であるため、この後も着実な取組を継続することが必要であると考えます。	見直し内容 取組が着実かつ効果的に実施できるように、地元団体やJR九州等の関係者と連携して引き続き積極的に取組みます。

【Plan】計画			【Do】実施 → 【Check】評価			
目的	対象(誰を、何を)	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか)	成果の状況	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック		
	小倉都心・黒崎副都心地区	小倉駅及び黒崎駅南北の回遊性強化をはじめとし、更なる活性化、賑わいづくりを推進します。				
代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方)	25年度実績	26年度目標	26年度実績 (達成率)	成果の状況 評価理由	
	公共交通結節機能の強化					
	黒崎駅南口で収容しきれない機能を、北口に転換するため、黒崎駅北口駅前広場と一体となって自由通路を整備することで、黒崎駅周辺の交通結節機能の強化を図ります。それにより、自由通路利用者数が約2000人増加します(H24比較)。 (最終目標と目標年度) 自由通路利用者数約2,000人増 H30年度				%	
	(最終目標と目標年度)				%	

活動計画	どうやって目的を達成するか	賑わいづくりの推進を図るため、地元団体、JR等の協力を得ながら、協議を密に行い、まちづくり整備を進めています。	活動の状況	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック	
活動指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明)	25年度実績	26年度目標	26年度実績 (達成率)	活動の状況 評価理由
	事業の進捗率(黒崎駅南北自由通路、黒崎ペデストリアンデッキルーフの整備)				
	黒崎駅における南北自由通路及びペデストリアンデッキルーフ整備の円滑な進捗に努めます。		30 %		%
	事業の進捗率(小倉駅南北自由通路のリニューアル)			49 %	
	老朽化した天井の張替等に併せて、小倉駅南北連絡通路のリニューアルを行います。				%

【Check】評価(分析)	
分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点 「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を)の分析 ※民間活力導入の視点

P D C A チェックシート (平成 26 年度実績評価)

事業概要							担当局	建設局
							担当課	河川整備課
事業概要							課長名	高島
							施策番号	
事業名	旦過地区まちづくりに資する河川整備事業						事業手法 <input type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他 ()	
事業概要	長年市民に親しまれている旦過市場をさらに魅力ある商業拠点とするために、地元と協働で旦過地区まちづくり整備計画を策定し、神嶽川の治水安全度を高める、河川事業を推進します。							
コスト	26年度当初予算額	26年度執行額	(事業費備考)	人件費	目安の金額	課長 0.30 人		
	57,000 千円	千円			16,950 千円	係長 0.60 人 職員 1.00 人		

【Action】改善			
課題	H24年度の評価結果を受けての課題	旦過地区まちづくり整備計画の策定にあたり、市場関係者が約200名と多数であり、権利形態や営業形態が複雑であるうえに、市場関係者の中で意見がまとまっていないなど、合意形成に向けて課題がある。	見直し内容

【Plan】計画				【Do】実施 → 【Check】評価	
目的	対象(誰を、何を)	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか)		成果の状況	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック
	旦過市場	安全・安心で、さらに魅力ある市場とするために、神嶽川の改修と河川上空を市場として利用する旦過市場の再整備に着手します。			
代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方)	25年度実績	26年度目標	26年度実績 (達成率)	成果の状況 評価理由
	神嶽川(旦過地区)の治水安全度向上				
	概ね50年に一度発生する降雨にも対応できるよう、神嶽川(旦過地区)の治水安全度向上を目指します。 (最終目標と目標年度)			%	
	(最終目標と目標年度)			%	

活動計画	どうやって目的を達成するか	より魅力ある旦過市場の整備に向け、地元や関係機関(福岡県等)と協議を重ねます。 ※福岡県: 神嶽川の河川管理者	活動の状況	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック	
活動指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明)	25年度実績	26年度目標	26年度実績 (達成率)	活動の状況 評価理由
	旦過地区まちづくり整備計画の策定状況				
	平成27年度の旦過地区まちづくり整備計画策定に向け、旦過地区まちづくり整備計画(案)を地元と協働で策定します。		70 %	%	
				%	

【Check】評価(分析)	
分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点 「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点

P D C A チェックシート (平成 26 年度実績評価)

事業概要							担当局	建設局
							担当課	道路計画課
事業概要							課長名	橋口
							施策番号	
事業名	小倉駅・黒崎駅前の賑わいづくりの推進						事業手法 <input type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他 ()	
事業概要	北九州市の玄関口となる小倉都心部と黒崎副都心部の駅前において、魅力的な都市環境の創造につながる道路環境整備を行い、まちの賑わいを推進します。							
コスト	事業費	26年度当初予算額	26年度執行額	(事業費備考)	人件費	目安の金額	課長 1.00 人	
		819,000 千円				61,500 千円	係長 2.00 人 職員 4.00 人	
							(人件費備考)	

【Action】改善			
課題	H24年度の評価結果を受けての課題	小倉都心部及び黒崎副都心部の駅前整備は、まちの賑わいづくりを進めるうえで重要な取組であるため、この後も着実な取組を継続することが必要であると考えます。	見直し内容 取組が着実かつ効果的に実施できるように、地元団体やJR九州等の関係者と連携して引き続き積極的に取組みます。

【Plan】計画			【Do】実施 → 【Check】評価			
目的	対象(誰を、何を)	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか)	成果の状況	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック		
	小倉都心・黒崎副都心地区	小倉駅及び黒崎駅南北の回遊性強化をはじめとし、更なる活性化、賑わいづくりを推進します。				
代表的な成果指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方)	25年度実績	26年度目標	26年度実績(達成率)	成果の状況 評価理由	
	公共交通結節機能の強化					
	黒崎駅南口で収容しきれない機能を、北口に転換するため、黒崎駅北口駅前広場と一体となって自由通路を整備することで、黒崎駅周辺の交通結節機能の強化を図ります。それにより、自由通路利用者数が約2000人増加します(H24比較)。 (最終目標と目標年度) 自由通路利用者数約2,000人増 H30年度				%	
	(最終目標と目標年度)				%	

活動計画	どうやって目的を達成するか	賑わいづくりの推進を図るため、地元団体、JR等の協力を得ながら、協議を密に行い、まちづくり整備を進めています。	活動の状況	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック	
活動指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明)	25年度実績	26年度目標	26年度実績(達成率)	活動の状況 評価理由
	事業の進捗率(黒崎駅南北自由通路、黒崎ペDESTリアンデッキルーフの整備)				
	黒崎駅における南北自由通路及びペDESTリアンデッキルーフ整備の円滑な進捗に努めます。		30 %		%
	事業の進捗率(小倉駅南北自由通路のリニューアル)			49 %	
	老朽化した天井の張替等に併せて、小倉駅南北連絡通路のリニューアルを行います。				%

【Check】評価(分析)	
分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点 「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点

PDCAチェックシート (平成 26 年度実績評価)

担当局	建設局
担当課	道路計画課
課長名	橋口
施策番号	
V - 2 - (2) - ①	
事業手法	<input type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金
	<input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金
	<input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理
	<input type="checkbox"/> その他
()	

事業概要					
事業名	自動車専用道路ネットワークの整備				
事業概要	港湾・空港・鉄道ターミナルなど、拠点間を結ぶ交通・物流ネットワークの構築や地域間の連携・交流促進を図るため、環状放射型自動車専用道路ネットワークの整備を推進していきます。				
コスト	事業費	26年度当初予算額	26年度執行額	(事業費備考)	目安の金額
		1,767,867 千円	千円		課長 1.00 人 係長 2.00 人 職員 5.00 人
					(人件費備考)

【Action】改善		
課題	H24年度の評価結果を受けての課題 自動車専用道路ネットワークの整備は、交通・物流ネットワーク構築を図るため、着実な取組を継続することが必要であると考えます。	見直し内容 着実な取組ができるよう、限られた予算の中で、事業の選択と集中を行いながら、効率的な事業進捗が図れるように事業に取り組みます。

【Plan】計画				【Do】実施 → 【Check】評価	
目的	対象(誰を、何を) 交通物流機能の強化 市民の交通便利性の向上	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか) 自動車専用道路である戸畑枝光線及び黒崎バイパスの整備を推進し、物流ネットワークを重点的かつ速やかに形成することで、産業の振興や新たな企業誘致を進め、アジアの玄関口である本市の国際競争力の強化を図ります。また、地域間の連携・交流促進、市民の交通便利性の向上などに資する道路・交通ネットワークの整備を進めます。		成果の状況	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック
代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方)	25年度実績	26年度目標	26年度実績 (達成率)	成果の状況 評価理由
	広域物流ネットワークの強化				
	戸畑枝光線の整備により、朝ピーク時において、響灘地区(安瀬)～東田地区(枝光)間の所要時間が43分から13分に短縮されます。 (最終目標と目標年度) 所要時間短縮 H39年度		-	%	
	(最終目標と目標年度)			%	

活動計画				活動の状況	
活動計画	どうやって目的を達成するか 広域物流ネットワークの強化及び地域間のアクセス向上を図るため、事業の選択と集中により、自動車専用道路ネットワーク(戸畑枝光線、国道3号(黒崎バイパス))の整備を促進します。			活動の状況	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック
活動指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明)	25年度実績	26年度目標	26年度実績 (達成率)	活動の状況 評価理由
	戸畑枝光線の事業進捗率				
	産業拠点や地域間のアクセスの向上のため、戸畑枝光線の整備を進めます。		13.0 %	%	
				%	

【Check】評価(分析)	
分析及び課題の整理	<p>【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点</p> <p>「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点</p>

P D C A チェックシート (平成 26 年度実績評価)

事業概要					担当局	建設局
					担当課	道路計画課
事業名 主要な道路の整備(恒見朽網線など)					課長名	橋口
					施策番号	
事業概要 主要な街路・道路事業を重点的かつ速やかに整備することで、市内の渋滞対策、物流ネットワークの強化、地域間の連携・交流促進を図ります。					<input type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他 ()	
					コスト 事業費	

【Action】改善			
課題	H24年度の評価結果を受けての課題 道路整備の発注工事については、順調に進められており、今後も用地確保に努めながら、早期効果が現れる様に、計画的な道路整備を行っていく必要があります。	見直し内容	今後も早期の整備効果が現れる様に、暫定整備や一定区間整備を図ります。

【Plan】計画			【Do】実施 → 【Check】評価		
目的	対象(誰を、何を) 交通物流機能の強化 市民の交通利便性の向上	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか) 本市の競争力の強化を図るため、物流拠点間のアクセスを強化し、広域的なネットワークを形成します。また、地域間の連携・交流促進、市民の交通利便性の向上などに資する道路・交通ネットワークの整備を進めます。	成果の状況	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック	
代表的な成果指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方) 広域物流ネットワークの強化	25年度実績	26年度目標	26年度実績(達成率)	成果の状況 評価理由
	恒見朽網線の整備により、新門司地区と北九州空港間の所要時間が36分から28分に短縮されます。 (最終目標と目標年度) 所要時間短縮 H37年度		-	%	
	(最終目標と目標年度)			%	

活動計画	どうやって目的を達成するか 物流ネットワーク構築のため、道路の早期整備を促進します。また、整備中の道路については、供用目標年次に向け、確実に整備促進を図ります。	活動の状況	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック	
活動指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明) 主要な街路・道路の単年度完成延長(暫定での供用を含む)	25年度実績	26年度目標	26年度実績(達成率)
	市内の渋滞対策やネットワーク強化のため、主要な街路・道路の整備を進めています。		2.3 km	%
				%

【Check】評価(分析)	
分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点 「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を)の分析 ※民間活力導入の視点

PDCAチェックシート (平成 26 年度実績評価)

事業概要					担当局	建設局	
					担当課	道路計画課	
					課長名	橋口	
事業名	自動車専用道路ネットワークの整備					施策番号	
						V - 2 - (2) - ②	
事業概要	港湾・空港・鉄道ターミナルなど、拠点間を結ぶ交通・物流ネットワークの構築や地域間の連携・交流促進を図るため、環状放射型自動車専用道路ネットワークの整備を推進していきます。					事業手法	<input checked="" type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input checked="" type="checkbox"/> 負担金 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他
							()
コスト	事業費	26年度当初予算額	26年度執行額	(事業費備考)	目安の金額	課長 1.00 人	
		1,767,867 千円	千円		69,000 千円	係長 2.00 人 職員 5.00 人	
						(人件費備考)	

【Action】改善			
課題	H24年度の評価結果を受けての課題	自動車専用道路ネットワークの整備は、交通・物流ネットワーク構築を図るため、着実な取組を継続することが必要であると考えます。	見直し内容 着実な取組ができるよう、限られた予算の中で、事業の選択と集中を行いながら、効率的な事業進捗が図れるように事業に取り組みます。

【Plan】計画				【Do】実施 → 【Check】評価		
目的	対象(誰を、何を) 交通物流機能の強化 市民の交通利便性の向上	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか) 自動車専用道路である戸畑枝光線及び黒崎バイパスの整備を推進し、物流ネットワークを重点的かつ速やかに形成することで、産業の振興や新たな企業誘致を進め、アジアの玄関口である本市の国際競争力の強化を図ります。また、地域間の連携・交流促進、市民の交通利便性の向上などに資する道路・交通ネットワークの整備を進めます。		成果の状況	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック	
代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方)	25年度実績	26年度目標	26年度実績 (達成率)	成果の状況 評価理由	
	広域物流ネットワークの強化					
	戸畑枝光線の整備により、朝ピーク時において、響灘地区(安瀬)～東田地区(枝光)間の所要時間が43分から13分に短縮されます。 (最終目標と目標年度) 所要時間短縮 H39年度		-		%	
	(最終目標と目標年度)				%	

活動計画	どうやって目的を達成するか 広域物流ネットワークの強化及び地域間のアクセス向上を図るため、事業の選択と集中により、自動車専用道路ネットワーク(戸畑枝光線、国道3号(黒崎バイパス))の整備を促進します。	活動の状況	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック			
活動指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明)	25年度実績	26年度目標	26年度実績 (達成率)	活動の状況 評価理由	
	戸畑枝光線の事業進捗率					
	産業拠点や地域間のアクセスの向上のため、戸畑枝光線の整備を進めます。		13.0 %		%	
	(最終目標と目標年度)				%	

【Check】評価(分析)	
分析及び課題の整理	<p>【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点</p> <p>「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点</p>

P D C A チェックシート (平成 26 年度実績評価)

事業概要							担当局	建設局
							担当課	道路計画課
事業概要							課長名	橋口
							施策番号	
事業名	主要な道路の整備(恒見朽網線など)						事業手法 <input type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他 () (人件費備考) 本庁道路部+東西整備事務所の職員を対象に試算しています。	
事業概要	主要な街路・道路事業を重点的かつ速やかに整備することで、市内の渋滞対策、物流ネットワークの強化、地域間の連携・交流促進を図ります。							
コスト	26年度当初予算額	26年度執行額	(事業費備考)	人件費	目安の金額	課長 3.00 人		
	6,302,557 千円	千円			217,250 千円	係長 6.50 人 職員 15.70 人		

【Action】改善			
課題	H24年度の評価結果を受けての課題	道路整備の発注工事については、順調に進められており、今後も用地確保に努めながら、早期効果が現れる様に、計画的な道路整備を行っていく必要があります。	見直し内容 今後も早期の整備効果が現れる様に、暫定整備や一定区間整備を図ります。

【Plan】計画			【Do】実施 → 【Check】評価		
目的	対象(誰を、何を)	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか)	成果の状況	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック	
	交通物流機能の強化 市民の交通利便性の向上	本市の競争力の強化を図るため、物流拠点間のアクセスを強化し、広域的なネットワークを形成します。また、地域間の連携・交流促進、市民の交通利便性の向上などに資する道路・交通ネットワークの整備を進めます。			
代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方)	25年度実績	26年度目標	26年度実績 (達成率)	成果の状況 評価理由
	広域物流ネットワークの強化				
	恒見朽網線の整備により、新門司地区と北九州空港間の所要時間が36分から28分に短縮されます。 (最終目標と目標年度) 所要時間短縮 H37年度		-	%	
				%	
(最終目標と目標年度)			%		

活動計画	どうやって目的を達成するか	物流ネットワーク構築のため、道路の早期整備を促進します。また、整備中の道路については、供用目標年次に向け、確実に整備促進を図ります。	活動の状況	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック	
活動指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明)	25年度実績	26年度目標	26年度実績 (達成率)	活動の状況 評価理由
	主要な街路・道路の単年度完成延長 (暫定での供用を含む)				
	市内の渋滞対策やネットワーク強化のため、主要な街路・道路の整備を進めています。		2.3 km	%	
				%	
			%		

【Check】評価(分析)	
分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点 「経済性」 (同成果を低コストで) 「効率性」 (同コストで高成果を)の分析 ※民間活力導入の視点

P D C A チェックシート (平成 26 年度実績評価)

事業概要					担当局	建設局
					担当課	道路維持課
事業名 橋梁・トンネルの長寿命化への計画的な取り組み					課長名	東
					施策番号	
市内には、約2,000の橋梁と42本のトンネルがあり、これら橋の多くは高度経済成長期以降に建設されたもので高齢化・老朽化の進展が懸念されています。そこで、長期的視点にたち効率的・効果的に管理するアセットマネジメントの考え方を取り入れ、従来の悪くなったら補修する対症療法型を改め、計画的に手を入れて長持ちさせる予防保全型に移行するため、「北九州市橋梁長寿命化修繕計画」(H22.7計画公表)及び「北九州市トンネル長寿命化修繕計画」(H25.2計画公表)を策定しました。本事業は、この計画をもとに、予防が有効な状態である健全度Ⅲ以上の橋梁とトンネルを増加させることで市民の安全・安心を確保します。					事業手法 <input checked="" type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input checked="" type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他 ()	
		2,547,100 千円			90,650 千円	(人件費備考)

【Action】改善			
課題	H24年度の評価結果を受けての課題	橋梁・トンネル長寿命化修繕計画に基づき順調に事業が進捗しました。今後も引き続き橋梁・トンネルの長寿命化に取り組み補修補強工事を進めていきます。	見直し内容 平成31年度までにすべての主要橋梁が健全度ランクⅢ以上となるよう計画に沿って事業を進めていきます。 平成33年度までにすべてのトンネルが健全度ランクⅢ以上となるよう計画に沿って事業を進めていきます。

【Plan】計画				【Do】実施 → 【Check】評価		
目的	対象(誰を、何を)	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか)		成果の状況	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック	
	主要橋梁、トンネル	全ての橋梁・トンネルが予防保全の有効な健全度ランクⅢ以上となる状態				
代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)		25年度実績	26年度目標	26年度実績(達成率)	成果の状況評価理由
	主要橋梁の健全度向上による市民の安全・安心の確保			—		
	すでに老朽化が進んでいる128橋を予防保全が有効な健全度ランクⅢ以上になるように補修補強工事を実施し、健全度ランクⅢ以上の割合を増加させます。 (最終目標と目標年度)				%	
	トンネルの健全度向上による市民の安全・安心の確保			—		
すでに老朽化が進んでいる8トンネルを予防保全が有効な健全度ランクⅢ以上になるように補修補強工事を実施し、健全度ランクⅢ以上の割合を増加させます。 (最終目標と目標年度)					%	

活動計画	どうやって目的を達成するか	今年度実施予定の18橋について健全度向上を図るため、補修補強工事を実施し、完成を目指します。 トンネルは、8トンネルについて健全度向上を図るため、補修補強設計及び工事に着手します。	活動の状況	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック		
活動指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)		25年度実績	26年度目標	26年度実績(達成率)	活動の状況評価理由
	リニューアル対象橋梁の完成数			18 橋		
	すでに老朽化が進んでいる128橋のうち18橋について工事の完成を目指します。				%	
	リニューアル対象トンネルの完成数			2 トンネル		
すでに老朽化が進んでいる8トンネルのうち2トンネルについて工事の完成を目指します。				%		

【Check】評価(分析)	
分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点
	「経済性」 (同成果を低コストで) 「効率性」 (同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点

P D C A チェックシート (平成 26 年度実績評価)

事業概要							担当局	建設局
							担当課	公園管理課
事業名 長野緑地を利用した農業体験教室							課長名	菊山
							施策番号	
事業概要 計画地内に複数の活動エリアを設け、一年を通してそれぞれのエリアで有機農業栽培管理や花作りを体験する市民参加による農地等の整備、管理等に取り組む。また、子どもたちが自然の中で遊び、学ぶ場を提供したり、収穫物を使用したイベントなど、市民の参加を拡大するイベント等を開催します。							事業手法	<input type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input checked="" type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他 ()
								(人件費備考)
コスト	事業費	26年度当初予算額	26年度執行額	(事業費備考)	人件費	目安の金額	課長 0.03 人	
		2,600 千円	千円			1,595 千円	係長 0.05 人 職員 0.10 人	

【Action】改善			
課題	H24年度の評価結果を受けての課題	H24年度は天候にも恵まれ、参加者数が2,000人を超えました。気象条件によって実施回数が左右される事業ですが、イベントの周知に努め、毎年度の参加者数が2,000人を超えることを目指します。	見直し内容 ホームページ等を活用して、事業の積極的な周知に努めます。

【Plan】計画			【Do】実施 → 【Check】評価		
目的	対象(誰を、何を)	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか)	成果の状況	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック	
	公園計画地を有効活用と里山・里地としての農村景観の維持	長野緑地ではその計画テーマとして「自然と人を育む、体験交流公園」を目指しています。当事業ではH15年度に完成した「学習用田圃」の効率的な管理運営として、また、計画地の買収済区域等の暫定的利用の一手法として、市民が農作業を通して自然環境について体験学習する「農業体験教室」を行います。それにより公園計画地を有効活用するとともに、里山・里地としての農村景観の維持を図ります。			
代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方) 市民参加による農業体験教室の参加者数 H15年度に事業を開始しH20年度に参加者数が2,000人を超えました。毎年度2,000人を超える参加者を目指します。 (最終目標と目標年度) 毎年度参加者数2,000人	25年度実績	26年度目標	26年度実績 (達成率)	成果の状況 評価理由
			2,000 人	%	
	(最終目標と目標年度)			%	

活動計画	農業体験教室は自然相手の事業であり、毎年、天候や気象条件が異なる中で、最善を尽くして事業を進めていきます。地元の団体や幼稚園、小学校と連携して活動を行います。農業体験を行うことで、自然に親しむ機会を与え、食への関心、家族や友達とのふれあいや、一緒に作業することへの喜びが得られることを期待しています。事業の実施はNPO法人長野美し村計画実行委員会に委託しています。	活動の状況	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック		
活動指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明) 市民参加による農業体験教室の実施 野菜作りの基本学習、土になじむことを目的としたサツマイモの作付け、芋ほりや水田でのもち米の田植え稲刈り等を行い、収穫物の試食会を開催します。ひまわり、コスモスの種まきを行い、花畑整備を行います。	25年度実績	26年度目標	26年度実績 (達成率)	活動の状況 評価理由
			50 回	%	
				%	

【Check】評価(分析)	
分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点 「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を)の分析 ※民間活力導入の視点

P D C A チェックシート (平成 26 年度実績評価)

担当局	建設局
担当課	緑政課
課長名	千々和
施策番号	
VI - 2 - (1) - ③	
事業手法	<input type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他 ()
コスト	(人件費備考)

事業概要				
事業名	「花やみどり」による彩りと潤いのあるまちづくり			
事業概要	都市景観の向上と潤いのある街づくりを目指し、花や緑を活用する事業です。 花壇(公共花壇)の整備を行うと共に、市民花壇やスポンサー花壇、うるっちゃ!花壇といった、市民ボランティアや企業・団体と一体となって美しく快適なまちづくりを推進します。道路や公園などの緑は、都市景観を印象付けるとともに、快適な生活環境をつくりまします。また都市景観を印象付け、快適な生活環境をつくる道路などの緑の整備については、植栽場所の生育空間などを考慮した、ゆとりある植栽を行うとともに、適正な維持管理を行うことで健全な緑の育成に努めています。さらに特別緑地保全地区制度や保存樹制度を活用し、都市に残された貴重な緑の保全に努めています。			
コスト	26年度当初予算額 162,043 千円	26年度執行額 千円	(事業費備考)	目安の金額 23,150 千円
			課長 0.10 人 係長 0.70 人 職員 2.00 人	

【Action】改善			
課題	H24年度の評価結果を受けての課題 ①効果的な場所への公共花壇の設置 ②特別緑地保全地区における土地取得の遅れ	見直し内容	①公共花壇の配置及びデザインの見直し ②土地取得の強化

【Plan】計画		【Do】実施 → 【Check】評価			
目的	対象(誰を、何を) ①市内各所 ②市内の緑	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか) ①花で彩られ、四季折々に花を楽しむことが出来る「花のまち北九州市」をさらに育てていき、市民はもちろん、ここを訪れた人にも「住んでみたい、住み続けたい」と思える「花とみどり潤いのまちづくり」を目指します。 ②特別緑地保全地区において、土地取得を行います。	成果の状況 代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック		
代表的な成果指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方) 公共花壇及び市民花壇の面積 公共花壇及び市民花壇は市民に一番身近にある花壇であり、市と市民の花づくりの実績に直ちに反映されるものです。今後も市民との協働で「花とみどりの潤いのまちづくり」の推進に努めていきます。 (最終目標と目標年度) 46,587m2 H27年度	25年度実績	26年度目標	26年度実績(達成率)	成果の状況 評価理由
	特別緑地保全地区の買収面積 特別緑地保全地区の買収を行い、都市の中の緑の保全を行っています。 (最終目標と目標年度)		5,000 m2	%	

活動計画	市民花壇においては市民との協働を推進していき、種からの花づくり推進やフラワーコーディネーターの主催する講座の開催などを推進していきます。 公共花壇においては、市民ボランティアとの協働や企業・団体の協力を得ながら効率的な維持管理に努め、より効果的な場所に設置し事業効果を維持していきます。 緑地保全地区においては、買入れ申し出のある土地について取得を行います。	活動の状況	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック		
活動指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明) 花づくりに関する講座の開催 フラワーコーディネーター主催で花づくり講習会を市民向けに開催します。また、市民花壇ボランティアを対象に講習会の開催を行い、花づくりの推進とボランティア間の交流の推進を行います。	25年度実績	26年度目標	26年度実績(達成率)	活動の状況 評価理由
			10 回	%	

【Check】評価(分析)	
分析及び課題の整理 【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点 「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点	

P D C A チェックシート (平成 26 年度実績評価)

担当局	建設局
担当課	緑政課
課長名	千々和
施策番号	
VI - 4 - (1) - ③	
事業手法	<input type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他 ()
コスト	(人件費備考)

事業概要				
事業名	「花やみどり」による彩りと潤いのあるまちづくり			
事業概要	都市景観の向上と潤いのある街づくりを目指し、花や緑を活用する事業です。 花壇(公共花壇)の整備を行うと共に、市民花壇やスポンサー花壇、うるっちゃ!花壇といった、市民ボランティアや企業・団体と一体となって美しく快適なまちづくりを推進します。道路や公園などの緑は、都市景観を印象付けるとともに、快適な生活環境をつくります。また都市景観を印象付け、快適な生活環境をつくる道路などの緑の整備については、植栽場所の生育空間などを考慮した、ゆとりある植栽を行うとともに、適正な維持管理を行うことで健全な緑の育成に努めています。さらに特別緑地保全地区制度や保存樹制度を活用し、都市に残された貴重な緑の保全に努めています。			
コスト	26年度当初予算額 162,043 千円	26年度執行額 千円	(事業費備考)	目安の金額 23,150 千円
			課長 0.10 人 係長 0.70 人 職員 2.00 人	

【Action】改善			
課題	H24年度の評価結果を受けての課題 ①効果的な場所への公共花壇の設置 ②特別緑地保全地区における土地取得の遅れ	見直し内容	①公共花壇の配置及びデザインの見直し ②土地取得の強化

【Plan】計画			【Do】実施 → 【Check】評価		
目的	対象(誰を、何を) ①市内各所 ②市内の緑	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか) ①花で彩られ、四季折々に花を楽しむことが出来る「花のまち北九州市」をさらに育てていき、市民はもちろん、ここを訪れた人にも「住んでみたい、住み続けたい」と思える「花とみどり潤いのまちづくり」を目指します。 ②特別緑地保全地区において、土地取得を行います。	成果の状況	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック	
代表的な成果指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方) 公共花壇及び市民花壇の面積 公共花壇及び市民花壇は市民に一番身近にある花壇であり、市と市民の花づくりの実績に直ちに反映されるものです。今後も市民との協働で「花とみどりの潤いのまちづくり」の推進に努めていきます。 (最終目標と目標年度) 46,587m2 H27年度	25年度実績	26年度目標	26年度実績(達成率)	成果の状況評価理由
	特別緑地保全地区の買収面積 特別緑地保全地区の買収を行い、都市の中の緑の保全を行っています。 (最終目標と目標年度)		46,287 m2	5,000 m2	%

活動計画	市民花壇においては市民との協働を推進していき、種からの花づくり推進やフラワーコーディネーターの主催する講座の開催などを推進していきます。 公共花壇においては、市民ボランティアとの協働や企業・団体の協力を得ながら効率的な維持管理に努め、より効果的な場所に設置し事業効果を維持していきます。 緑地保全地区においては、買入れ申し出のある土地について取得を行います。	活動の状況	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック		
活動指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明) 花づくりに関する講座の開催 フラワーコーディネーター主催で花づくり講習会を市民向けに開催します。また、市民花壇ボランティアを対象に講習会の開催を行い、花づくりの推進とボランティア間の交流の推進を行います。	25年度実績	26年度目標	26年度実績(達成率)	活動の状況評価理由
			10 回	%	

【Check】評価(分析)	
分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点 「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点

